

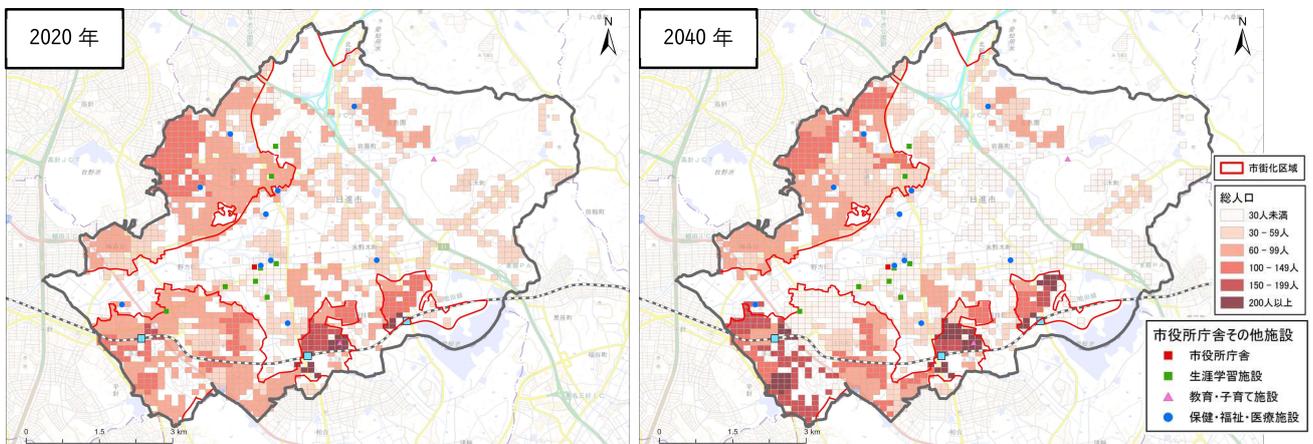
4. 都市機能

(1) 市役所庁舎その他施設

- 【現状】 ・ 市役所庁舎その他施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
 ・ 市街化調整区域内ですが、市の中央部に市役所等の公共施設が集中しています。
- 【将来】 ・ 市役所庁舎その他施設周辺の多くの地域では、2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれます。

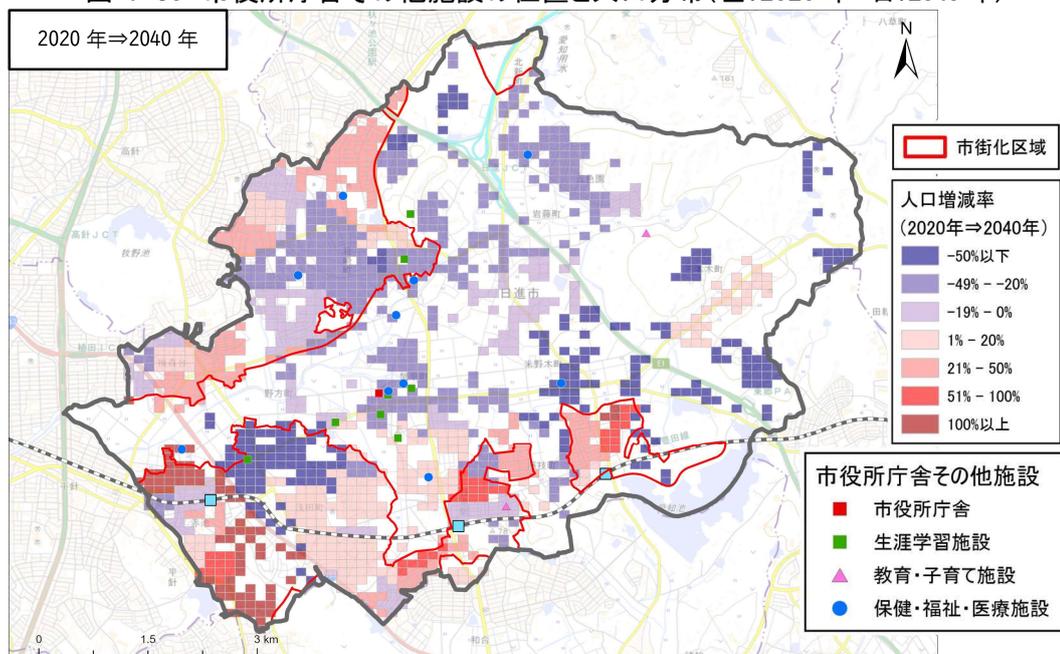
※

項目	公共施設
市役所庁舎	本庁舎、北庁舎
生涯学習施設	にぎわい交流館、旧市川家住宅、岩崎城歴史記念館、展望塔岩崎城、岩崎城址公園、市民会館、生涯学習プラザ、ふれあい工房、スポーツセンター、図書館
教育・子育て施設	教育支援センター、にっしん子育て総合支援センター
保健・福祉・医療施設	中央福祉センター、障害者福祉センター、保健センター、高齢者生きがい活動センター、福祉会館



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-30 市役所庁舎その他施設の位置と人口分布(左:2020年 右:2040年)



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料 著作権：国土地理院／Esri Japan

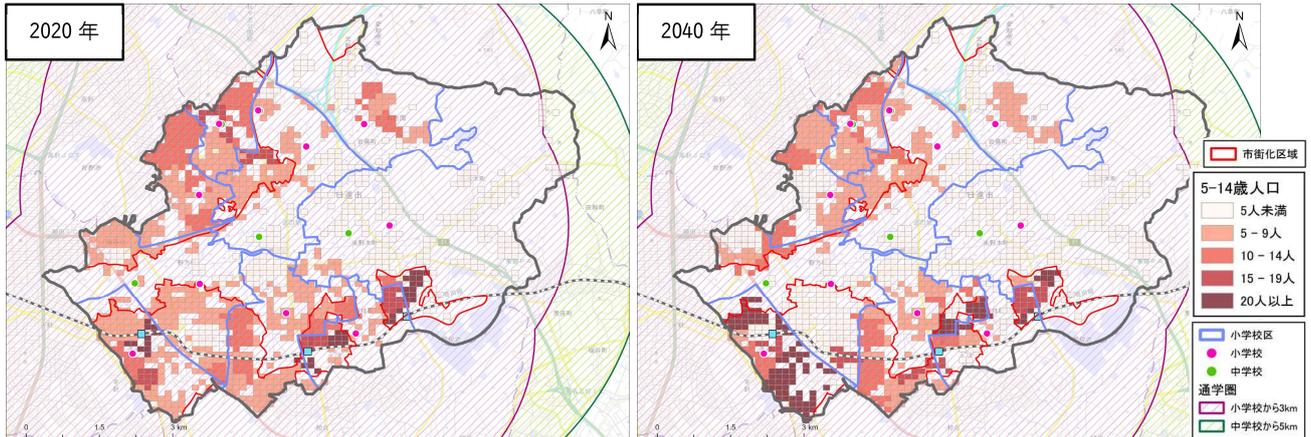
図 1-31 市役所庁舎その他施設の位置と人口増減(2020年⇒2040年)

(2) 学校施設

- 【現状】
- ・ 学校施設※1は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
 - ・ 学校施設の小学校通学圏※2は、概ねカバーできていますが、米野木町三ヶ峯の一部の地域でバス利用を含めた通学となっています。一方で、中学校通学圏は、市全域をカバーしています。
- 【将来】
- ・ 学校施設周辺の多くの地域では、2020年から2040年にかけて5-14歳人口減少が見込まれます。

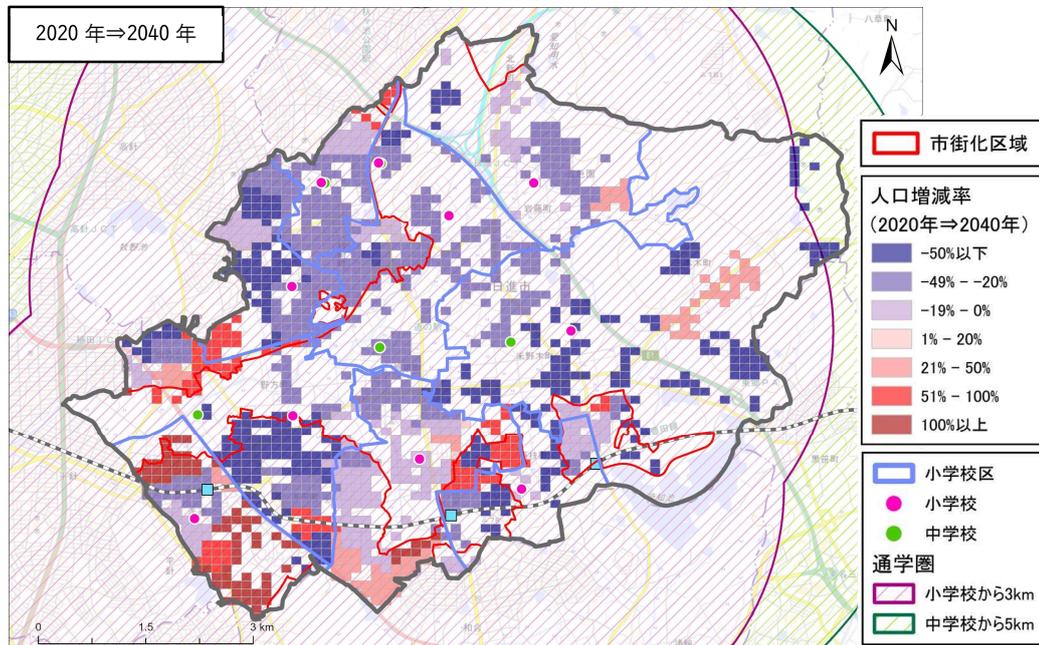
※1 学校施設：小学校、中学校（分校を含む）

※2 通学圏：小学校3km、中学校5km



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-32 学校施設の通学圏と5-14歳人口分布(左:2020年 右:2040年)



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料 著作権：国土地理院／Esri Japan

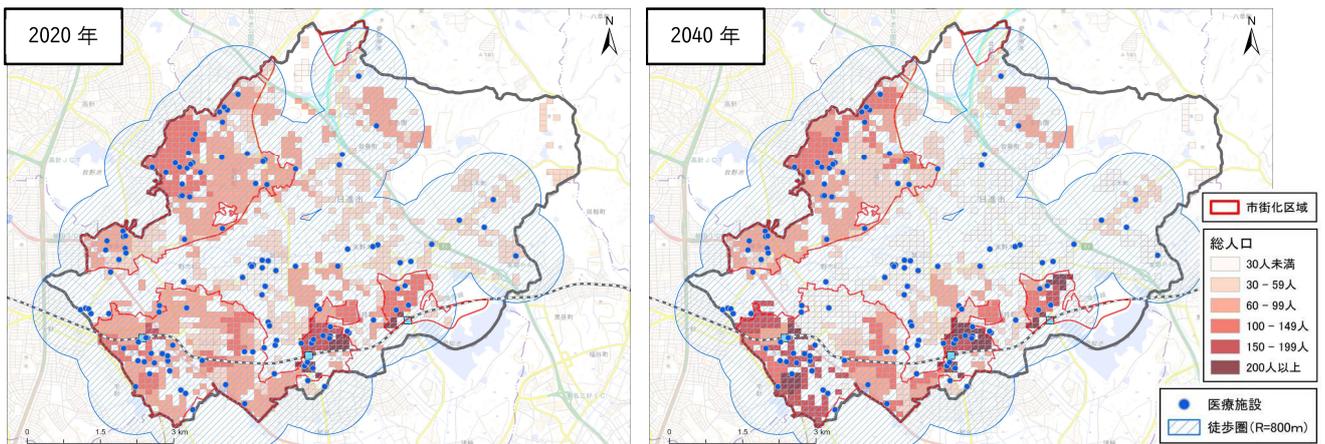
図 1-33 学校施設の通学圏と5-14歳人口増減(2020年⇒2040年)

(3) 医療

ア. 人口

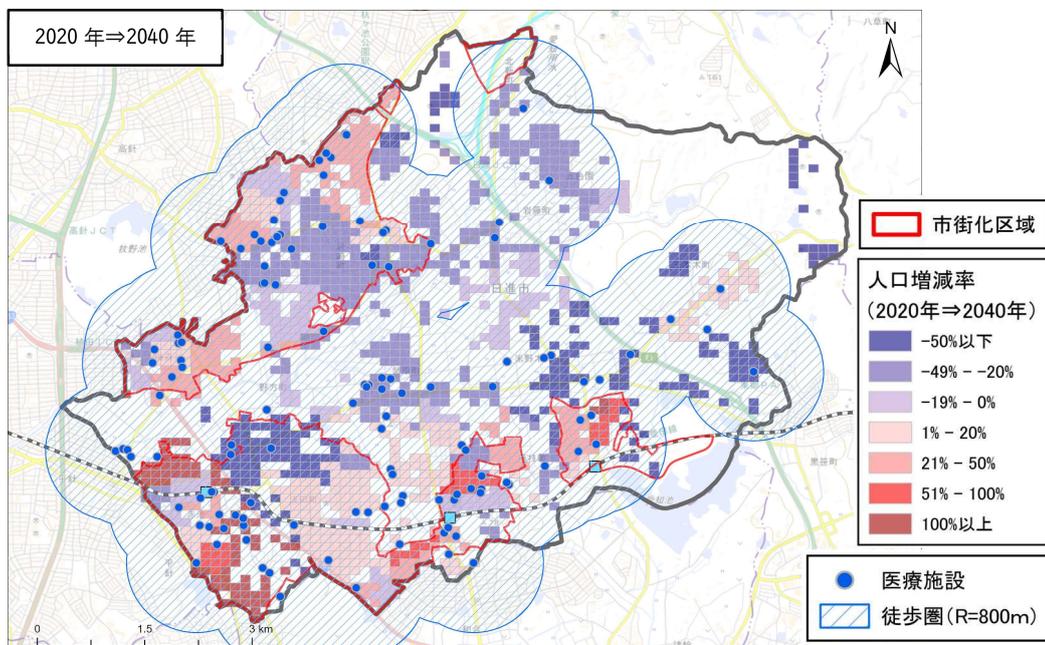
- 【現状】
- ・ 医療施設※は、人口が集中している市街化区域に多く立地していますが、市街化調整区域にも広く分布しています。
 - ・ 医療施設の徒歩圏は、市の人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の医療施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の人口を概ねカバーできる見込みです。
 - ・ おもに市街化調整区域における医療施設の徒歩圏内には、2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※医療施設：内科・外科・小児科を含む病院（病床数20床以上）及び診療所



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-34 医療施設の徒歩圏と人口分布(左:2020年 右:2040年)

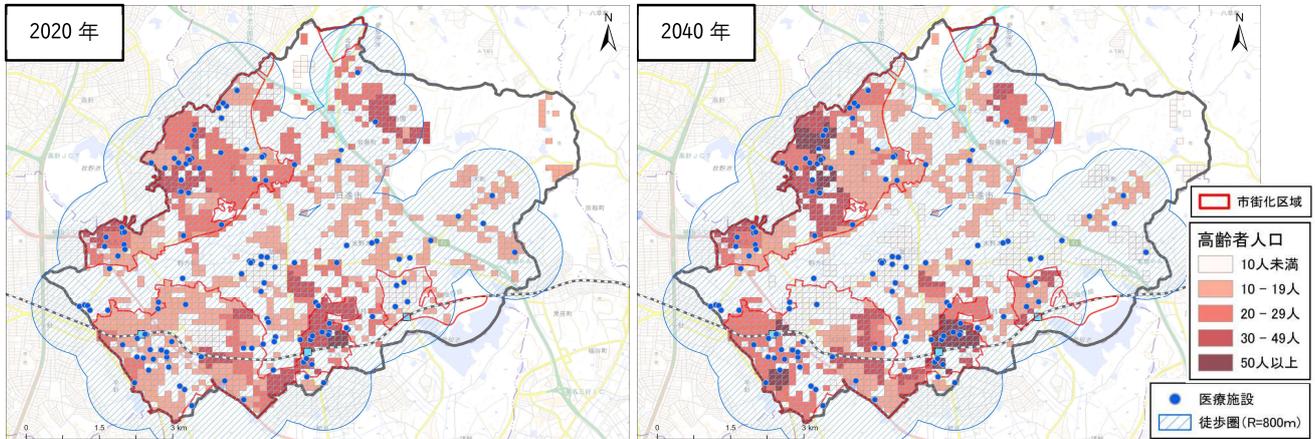


出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-35 医療施設の徒歩圏と人口増減(2020年⇒2040年)

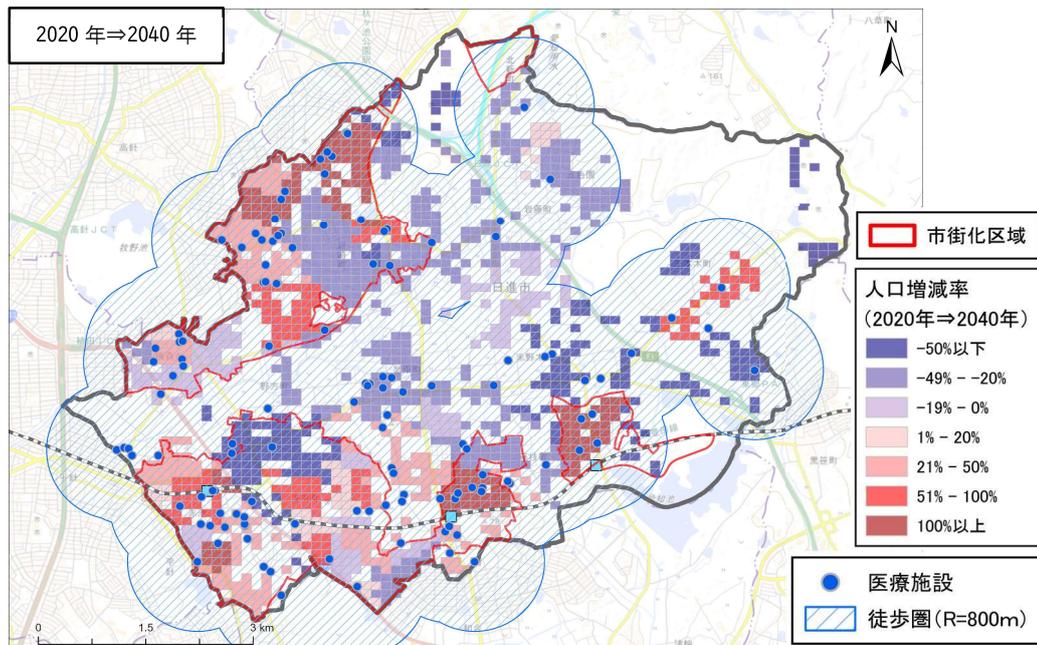
イ. 高齢者人口

- 【現状】 ・ 医療施設の徒歩圏は、高齢者人口を概ねカバーしています。
- 【将来】 ・ 現在の医療施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-36 医療施設の徒歩圏と高齢者人口分布(左:2020年 右:2040年)



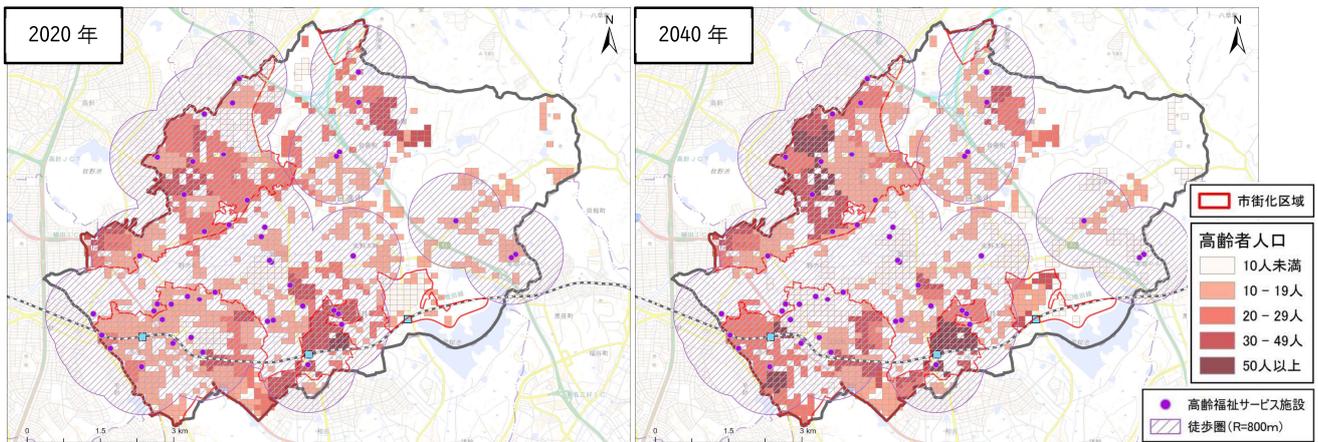
出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-37 医療施設の徒歩圏と高齢者人口増減(2020年⇒2040年)

(4) 高齢福祉

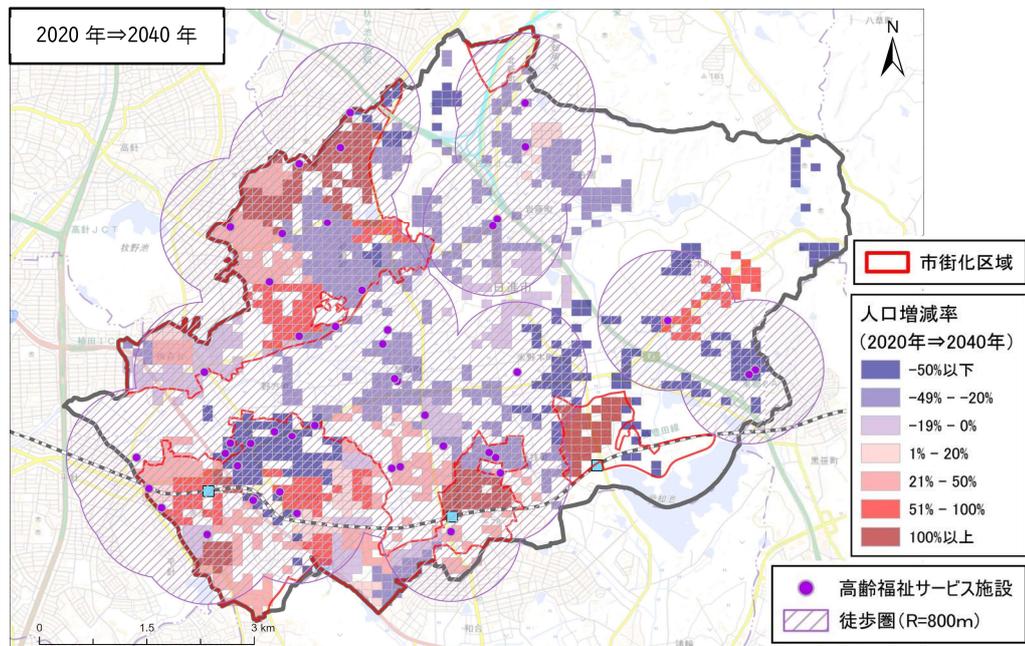
- 【現状】
- ・ 高齢福祉サービス施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
 - ・ 高齢福祉サービス施設の徒歩圏は、市の高齢者人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の高齢福祉サービス施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。
 - ・ 高齢者人口の増加が見込まれる米野木駅周辺や三本木町などの一部の地域で、高齢福祉サービス施設の徒歩圏外となる場所があります。
 - ・ 高齢福祉サービス施設の徒歩圏の中には、ほとんどの市街化調整区域に加え、浅田町、岩崎町、東山など2020年から2040年にかけて高齢者人口の減少が見込まれる場所があります。

※高齢福祉サービス施設：通所系・訪問系・小規模多機能型



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-38 高齢福祉サービス施設の徒歩圏と高齢者人口分布(左:2020年 右:2040年)



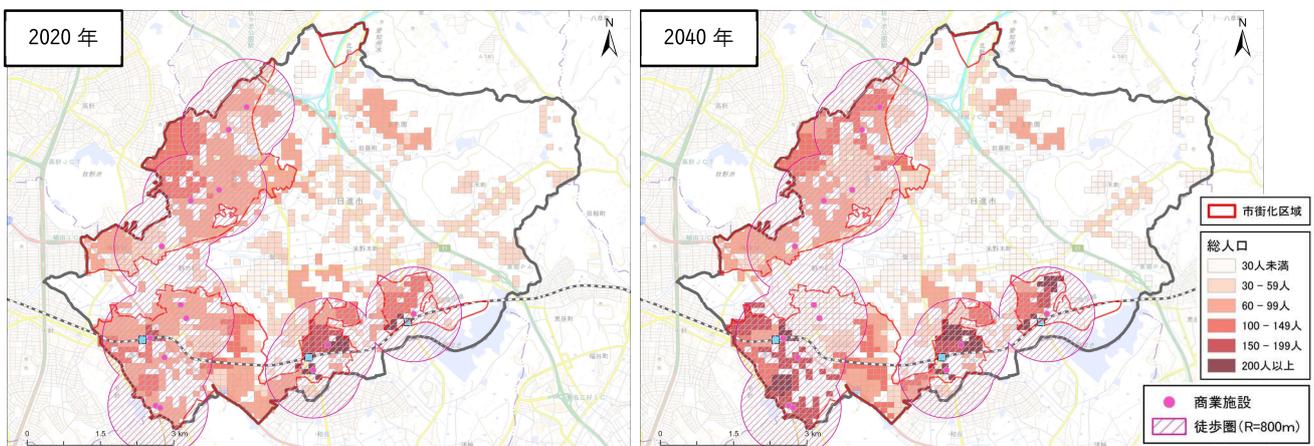
出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-39 高齢福祉サービス施設の徒歩圏と高齢者人口増減(2020年⇒2040年)

(5) 商業

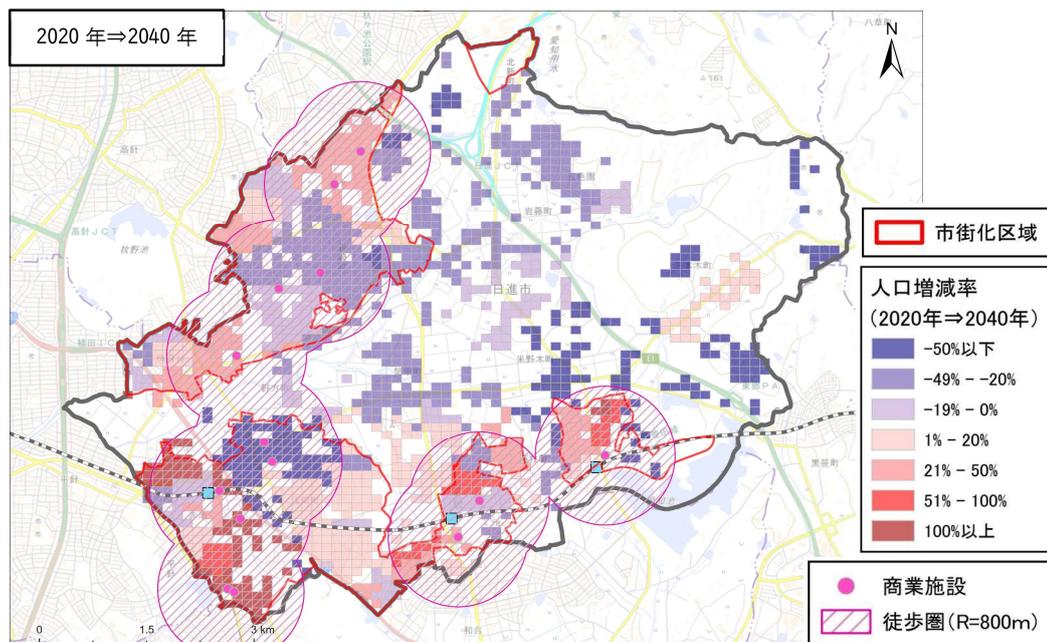
- 【現状】
- ・ 商業施設※は、すべて市街化区域に立地しています。
 - ・ 商業施設の徒歩圏は、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺の人口が集中している地域を概ねカバーしています。
 - ・ 市街化区域の中でも岩崎台、藤塚周辺は、商業施設の徒歩圏外となっているところがあります。
- 【将来】
- ・ 現在の商業施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、2020年から2040年にかけて、特に人口増加が見込まれる赤池駅、日進駅、米野木駅周辺を概ねカバーできる見込みです。
 - ・ 商業施設の徒歩圏の中には、浅田町や岩崎町周辺など2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※商業施設：食料品を取り扱う大規模小売店（店舗面積1,000㎡以上）、スーパーストア



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、
全国大型小売店総覧(2024)、iタウンページ、日本全国スーパーマーケット情報 著作権：国土地理院/Esri Japan

図 1-40 商業施設の徒歩圏と人口分布(左:2020年 右:2040年)



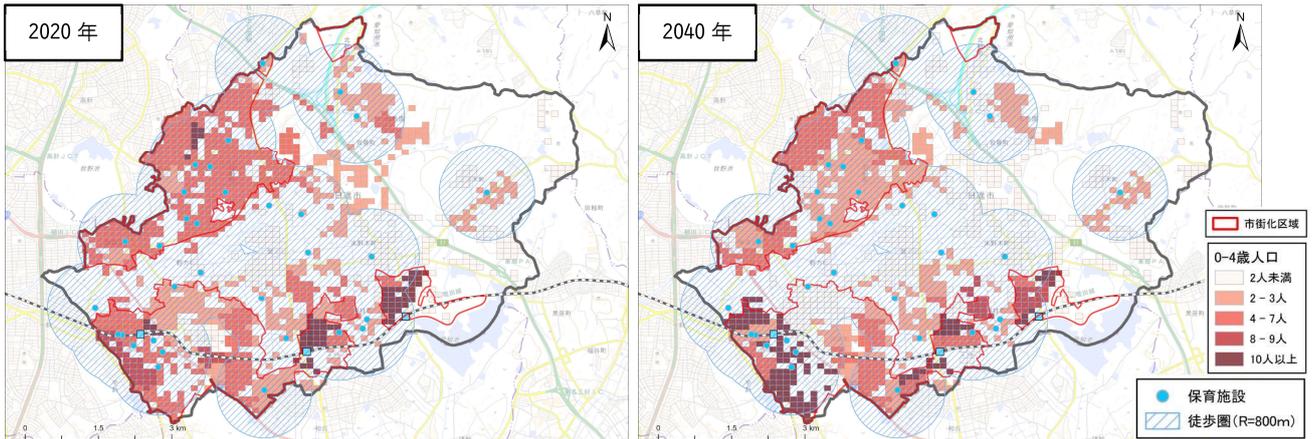
出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、
全国大型小売店総覧(2024)、iタウンページ、日本全国スーパーマーケット情報 著作権：国土地理院/Esri Japan

図 1-41 商業施設の徒歩圏と人口増減(2020年⇒2040年)

(6) 子育て

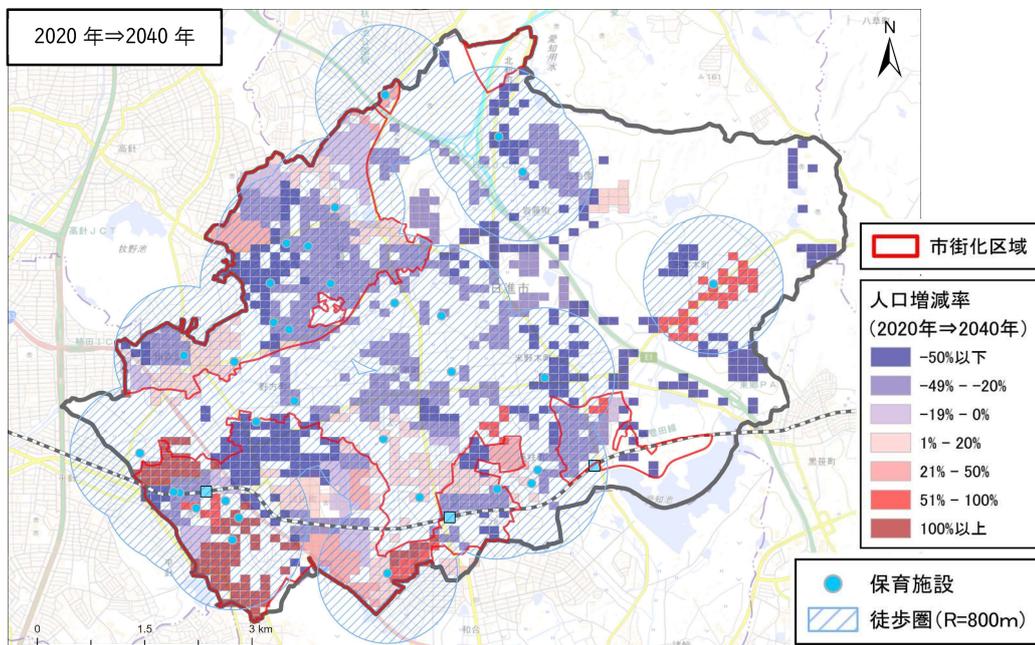
- 【現状】
- ・ 保育施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
 - ・ 保育施設の徒歩圏は、市の0-4歳人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の保育施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の0-4歳人口を概ねカバーできる見込みです。
 - ・ 保育施設の徒歩圏の中には、米野木駅、浅田町、岩崎町周辺や市街化調整区域など2020年から2040年にかけて0-4歳人口減少が見込まれるところがあります。

※保育施設：幼稚園、保育園、認定こども園、小規模保育事業所



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-42 保育施設の徒歩圏と0-4歳人口分布(左:2020年 右:2040年)



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市オープンデータ(2024年12月時点) 著作権：国土地理院／Esri Japan

図 1-43 保育施設の徒歩圏と0-4歳人口増減(2020年⇒2040年)

■都市機能の課題

現状及び将来見通し

- 公共施設は市内に広く立地しており、特に、市街化調整区域内ではあるが、市の中央部に市役所等の公共施設が集中しています。公共施設の周辺では、2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれます。
- 学校施設（小学校・中学校）は市内に広く立地しています。通学圏をみると、小学校通学圏は、概ねカバーできていますが、米野木町三ヶ峯の一部の地域でバス利用を含めた通学となっています。一方で、中学校通学圏は、市全域をカバーしています。2040年において、学校施設周辺の多くの地域では、5-14歳人口減少が見込まれます。
- 医療施設は、市内に広く分布しています。徒歩圏をみると、現在の医療施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、人口、高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。しかし、おもに市街化調整区域における徒歩圏では、人口減少が見込まれています。
- 高齢福祉サービス施設は、市内に広く分布しています。徒歩圏をみると、現在の高齢福祉サービス施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。しかし、高齢者人口の増加が見込まれる米野木駅周辺や三本木町などの一部地域が徒歩圏外となるところがあります。
- 商業施設はすべて市街化区域に立地しています。市街化区域内でも徒歩圏外の地域もありますが、特に人口が多く分布し、今後も増加が見込まれる赤池駅、日進駅、米野木駅周辺は、徒歩圏で概ねカバーされています。徒歩圏内には、人口減少が見込まれる地域もあります。
- 保育施設は、市内に広く立地しています。徒歩圏をみると、現在の保育施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の0-4歳人口を概ねカバーできる見込みです。徒歩圏内には、0-4歳人口減少が見込まれる地域もあります。



課題

- 市民ニーズや将来需要をふまえながら、都市機能を維持していくことが必要
- 都市機能のカバー率が低い地域では公共交通ネットワークによる都市機能へのアクセス性確保が必要
- 公共施設については、交通アクセスの維持・向上に加え、財政状況に応じた持続可能な運営が必要